

5. 電圧変動率と変圧器の損失と効率

5. Voltage Regulation , Loss and Efficiency of the Transformer

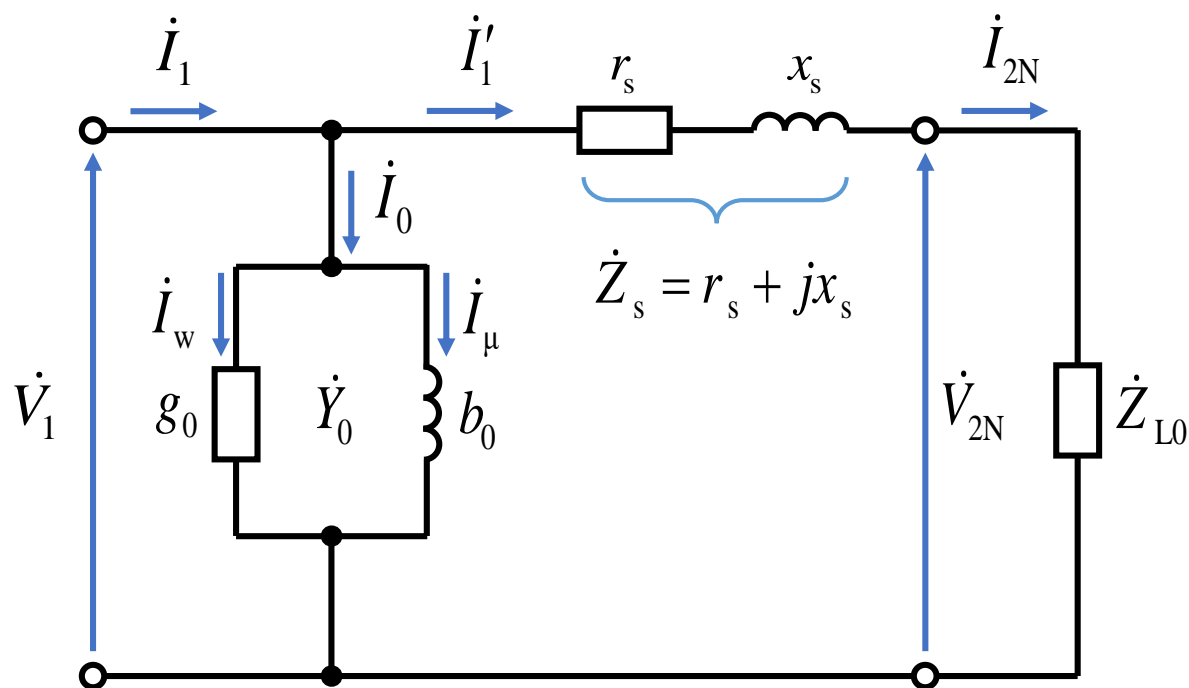
講義内容

- 1. 電圧変動率**
- 2. 各種損失**
- 3. 各種効率**

電圧変動率

変圧器は、**1次** 電圧が一定でも **負荷** 電流の大きさにより **2次** 電圧が変化する

➡ **短絡** インピーダンスによる電圧 **降下** が **負荷** 電流により **変化** する



電圧変動率

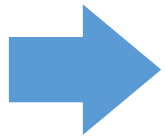
無負荷 電圧
定格負荷 時の
2次電圧

$$\varepsilon = \frac{V_{20} - V_{2N}}{V_{2N}} \times 100[\%]$$

$$\approx q_r \cos \theta + q_x \sin \theta$$

変圧器の損失

変圧器の
損失 P_{loss}



負荷を繋いでいない時にも発生している : **無負荷** 損
負荷を繋いだ時に新たに発生する : **負荷** 損

変圧器の
損失 P_{loss}

無負荷 損
 P_{NL}

鉄 損 P_i

ヒステリシス 損 $P_h = K_h f B_m^{1.6}$

渦電流 損 $P_e = K_e f^2 B_m^2$

漂遊無負荷損 (誘電体損を含む)

負荷 損
 P_L

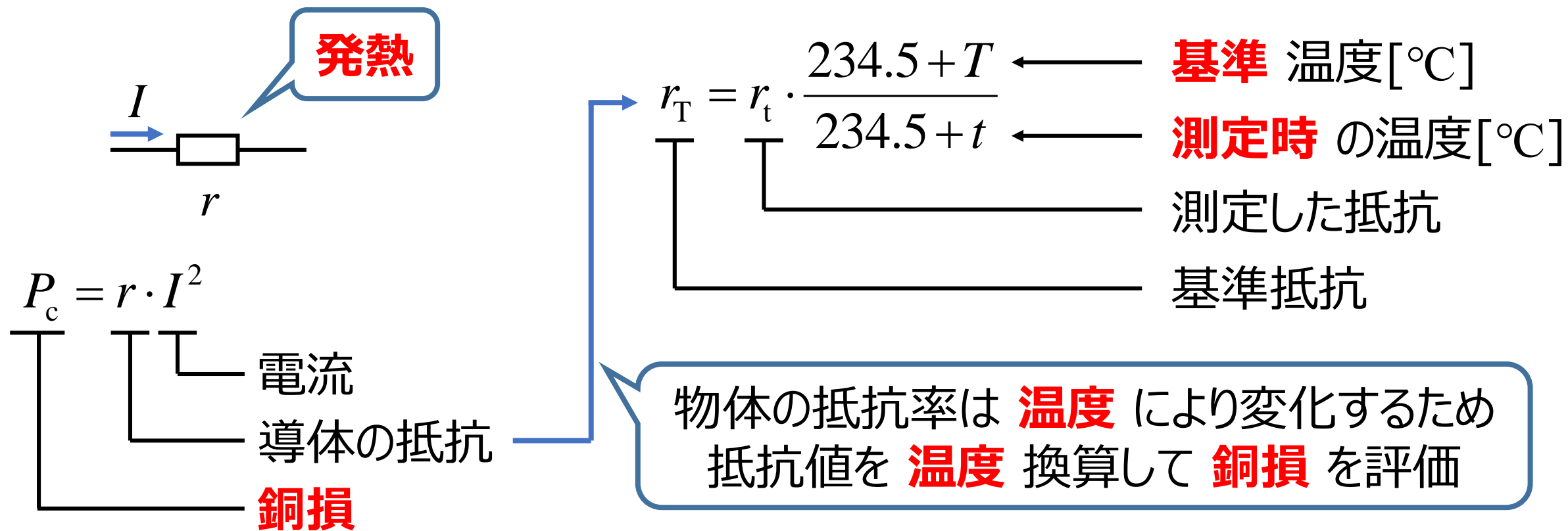
銅 損 $P_c = r_1 I_1^2 + r_2 I_2^2$

漂遊負荷損 → **漂遊** 損 P_{st}

K_h, K_e : 損失係数
 B_m : 最大磁束密度

銅損(Copper Loss)

電気機器用の巻線には **抵抗** の小さい **銅** 線やアルミ線を用いる



※234.5は銅における温度係数なので，材料に応じて変化する必要あり

鉄損 (Iron Loss)

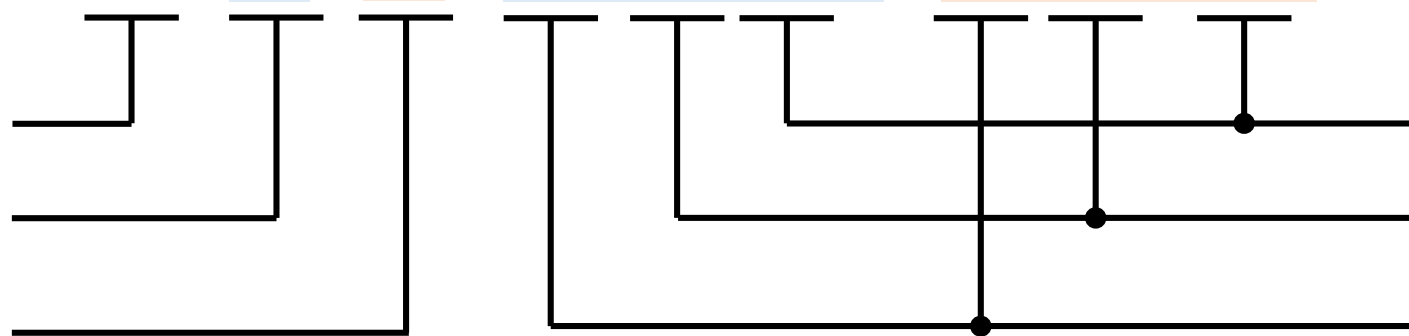
磁性体には **磁束** により生じる損失があり、これを **鉄損** と呼ぶ (下式は実験式)

Charles
Proteus
Steinmetz



$$P_i = P_h + P_e = K_h \cdot f \cdot B_m^{1.6} + K_e \cdot f^2 \cdot B_m^2$$

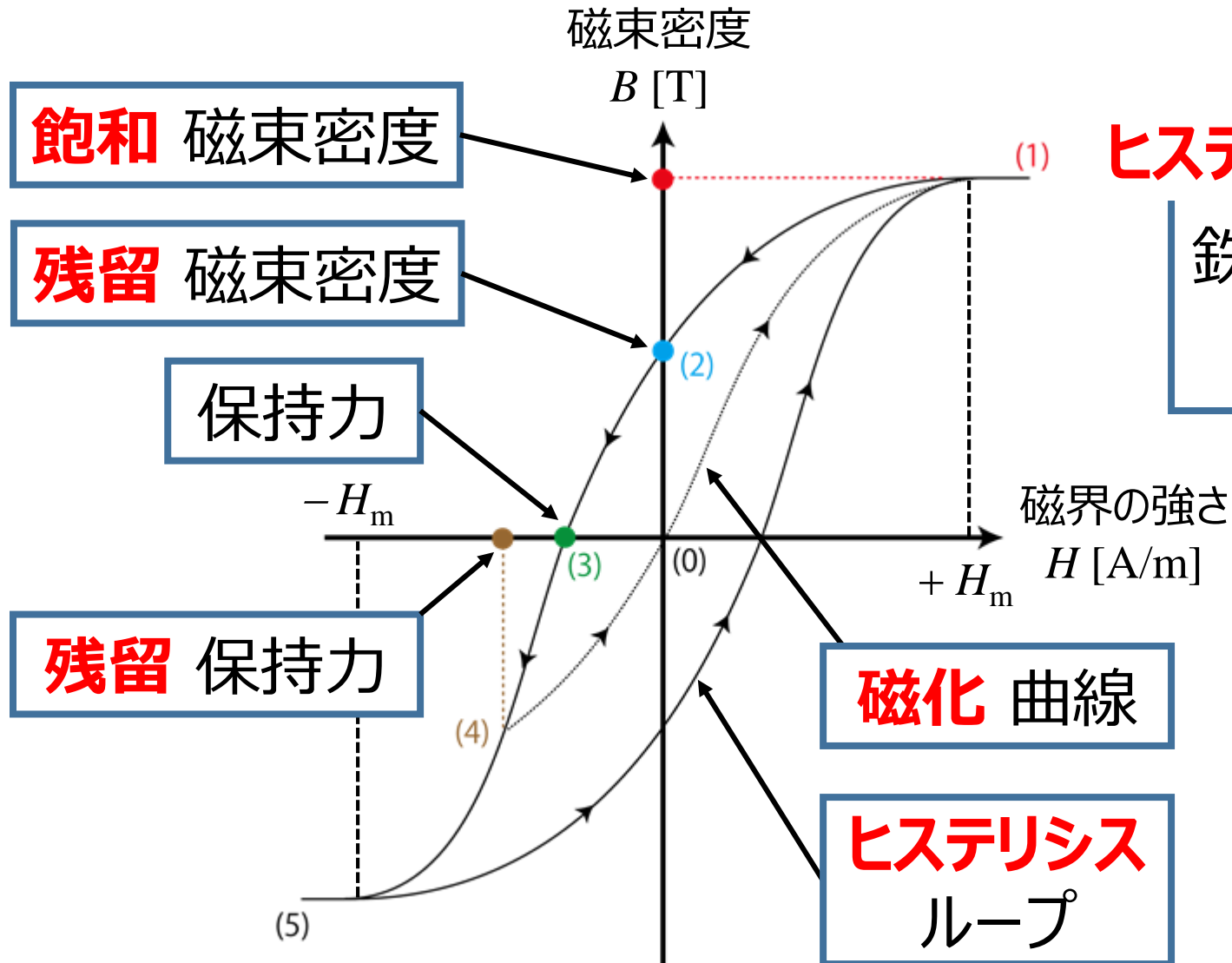
鉄損
ヒステリシス損
渦電流損



最大磁束密度
周波数
損失係数

鉄損は **無負荷** 損に相当し、磁性体の **材料** や鉄心の **構造** によって各種損失を低減することが可能となる

ヒステリシスループとヒステリシス損



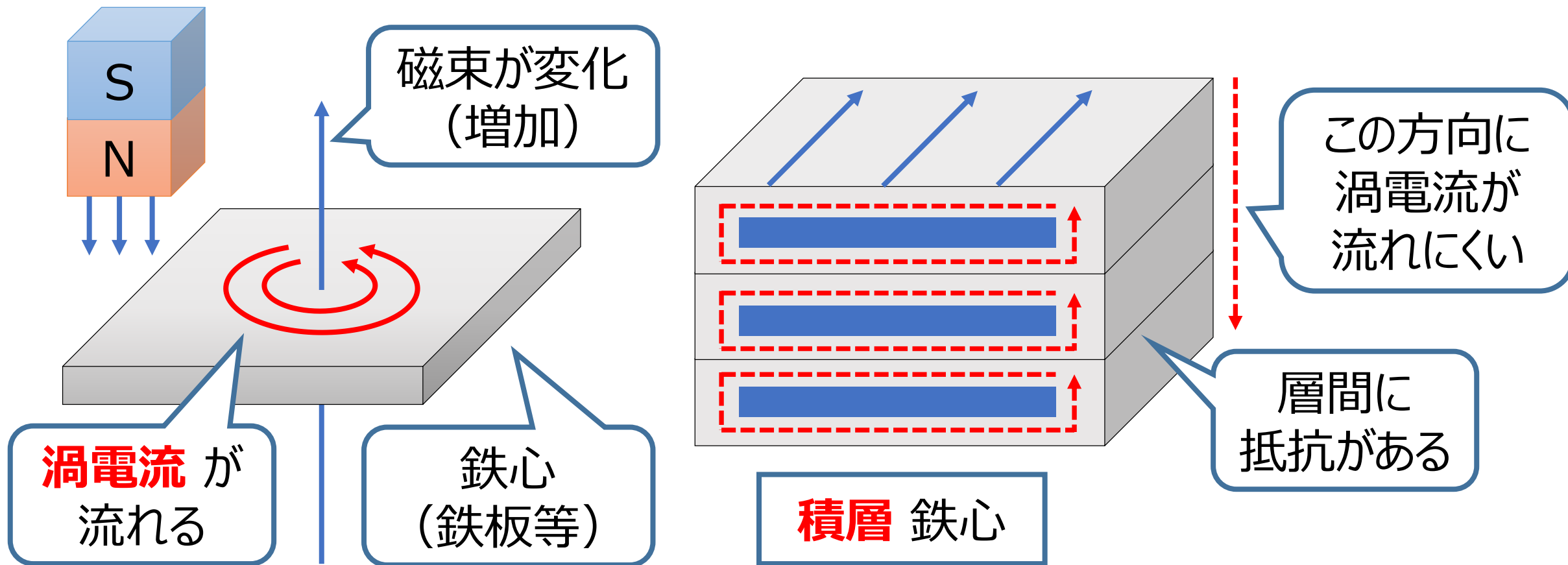
ヒステリシス 損

鉄心の **磁区** が **交番** 磁界によって磁界の向きを変えるとききの損失



ヒステリシス ループの **面積** が損失に相当する

渦電流(Eddy Current)と積層鉄心



磁石を近づけると、それに反発するように **渦電流** が流れ反作用磁束が生じる

例題：変圧器の損失

定格容量10[kVA]，一次定格電圧6.6[kV]，二次定格電圧200[V]の変圧器に60[Hz]の定格電圧を印加する。最大磁束密度が1.5[T]となって，無負荷損が50[W]の時，ヒステリシス損と渦電流損が同じだと仮定する。このときの損失係数 K_h ， K_e を求めよ。ここで，漂遊損は非常に小さく，無視できるものとする。

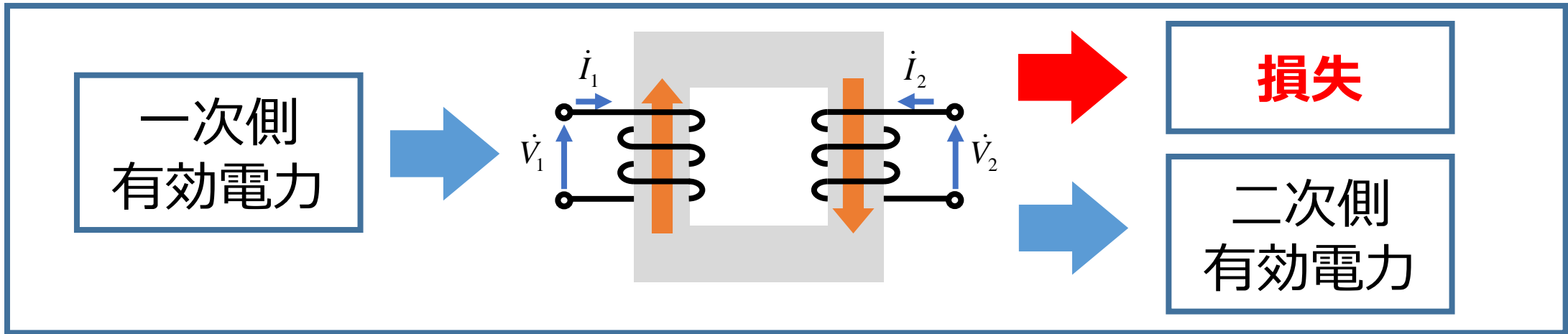
題意より，ヒステリシス損 P_h と渦電流損 P_e が等しいとし，更に漂遊損も無視できるので，無負荷損 $P_{NL} = P_h + P_e = 50[\text{W}]$ ， $P_h = P_e = 25[\text{W}]$ となる。

$$K_h = \frac{P_h}{f \cdot B_m^{1.6}} = \frac{25}{60 \times 1.5^{1.6}} = 0.217[\text{J} / \text{T}^2] \approx 0.22[\text{m}^4 / (\Omega \cdot \text{s})]$$

$$K_e = \frac{P_e}{f^2 \cdot B_m^2} = \frac{25}{60^2 \times 1.5^2} = \frac{1}{324}[\text{J} \cdot \text{s} / \text{T}^2] \approx 3.09 \times 10^{-3}[\text{m}^4 / \Omega]$$

変圧器の効率

変圧器の **効率** : 一次側の有効電力 P_1 と二次側の有効電力 P_2 の比



$$\eta = \frac{P_2}{P_1} = \frac{P_2}{P_2 + P_{\text{loss}}} = \frac{P_2}{P_2 + (P_L + P_{NL})} = \frac{V_2 I_2 \cos \theta}{V_2 I_2 \cos \theta + (P_i + P_c + P_{st})}$$

定格負荷($V_2=V_{2N}, I_2=I_{2N}$)
の効率 : **規約効率**

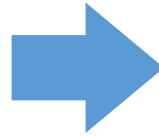
鉄損

銅損

漂遊損

※漂遊損は計算上合わない損失の辻褃合わせ

変圧器を定格容量で使用は稀



変圧器の負荷：全負荷の **1/n**

$$\text{負荷電流： } I_{2N} \Rightarrow \frac{I_{2N}}{n}$$

$$\text{銅損： } r \cdot I_{2N}^2 \Rightarrow r \left(\frac{I_{2N}}{n} \right)^2 = \frac{P_{cN}}{n^2}$$

鉄損：負荷電流に関係なく **一定**

漂遊損：負荷電流に関係なく
一定であると仮定

$$\eta_{\frac{1}{n}} = \frac{\frac{1}{n} V_{2N} I_{2N} \cos \theta}{\frac{1}{n} V_{2N} I_{2N} \cos \theta + \left(P_i + \frac{1}{n^2} P_{cN} + P_{stN} \right)}$$

部分負荷 効率

※定格負荷でなくとも同じ式

変圧器の最大効率（定格）

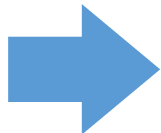
変圧器の二次側の定格電圧を V_{2N} 、定格電流を I_{2N} 、二次側に換算した全抵抗を r_{12} とし、漂遊損を無視すると負荷損は銅損のみとなるので、

$$\eta = \frac{V_{2N} I_{2N} \cos \theta}{V_{2N} I_{2N} \cos \theta + (P_i + r_{12} I_{2N}^2)} = \frac{V_{2N} \cos \theta}{V_{2N} \cos \theta + \left(\frac{P_i}{I_{2N}} + r_{12} I_{2N} \right)}$$

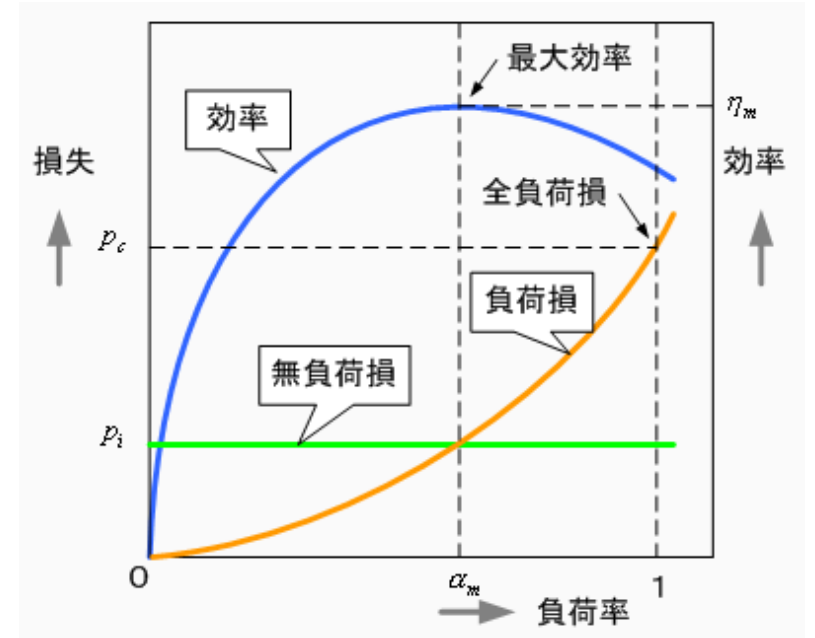
この時、負荷の大きさによって変化するのは分母の括弧内の式であり、これらが **最小** になればよい

$$\therefore \frac{P_i}{I_{2N}} \times r_{12} I_{2N} = P_i \cdot r_{12} (\text{一定}) \quad \text{と考えると,}$$

$$\frac{P_i}{I_{2N}} = r_{12} I_{2N}$$



$P_i = r_{12} I_{2N}^2$ (鉄損 = 銅損) が **最大効率** 条件となる
 ※ $A \times B = \text{一定}$ ならば, $A = B$ の時に $A + B$ は最小となる



変圧器の最大効率

変圧器に流れる二次電流は負荷の大きさによって異なり、
定格時に銅損と鉄損が等しくなるとは限らない

$$\eta = \frac{V_{2N} I_{2N} \cos \theta}{V_{2N} I_{2N} \cos \theta + (P_i + r_{12} I_{2N}^2)} = \frac{V_{2N} \cos \theta}{V_{2N} \cos \theta + \left(\frac{P_i}{I_{2N}} + r_{12} I_{2N} \right)} \Rightarrow \eta = \frac{V_2 \cos \theta}{V_2 \cos \theta + \left(\frac{P_i}{I_2} + r_{12} I_2 \right)}$$

$\therefore \frac{P_i}{I_2} = r_{12} I_2$ より、

$$I_2 = \sqrt{\frac{P_i}{r_{12}}} = \sqrt{\frac{P_i}{\left(\frac{P_c}{I_{2N}^2} \right)}} = \sqrt{\frac{P_i}{P_c}} I_{2N} \quad \rightarrow \quad I_2 = \sqrt{\frac{P_i + P_{stN}}{P_c}} I_{2N}$$

最大効率時の2次電流は

二次側換算した全抵抗は負荷損（銅損）を
定格 二次電流で割った値であることに注意！

漂遊 損も考慮した
最大効率時の I_2